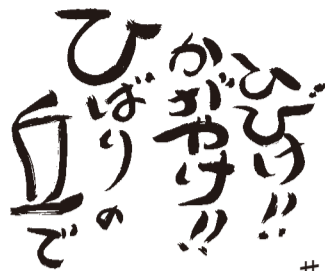


第8回 ひばりが丘フェスティバル

展示(ロビー)

10:00~16:00

- 和紙ちぎり絵「瑞雲の会」
 - 川柳朗遊会
 - 折りづるの会(おり紙)
 - 編物を楽しむ会 あむあむ
 - 水墨画を楽しむ会
 - 絵手紙 薔の会
 - WAHINE(手作り小物)
 - 泉舟会(毛筆)
 - しゅわクラブしゅわにゃん
 - 保育付きサークル(手作り作品)
 - チリンポロン・素敵にマイライフ・Como-cafe・Sunny Heart
 - エコで革小物を(コインケース、ペンケースづくりのワークショップ)
- ※3月初旬より随時、展示します

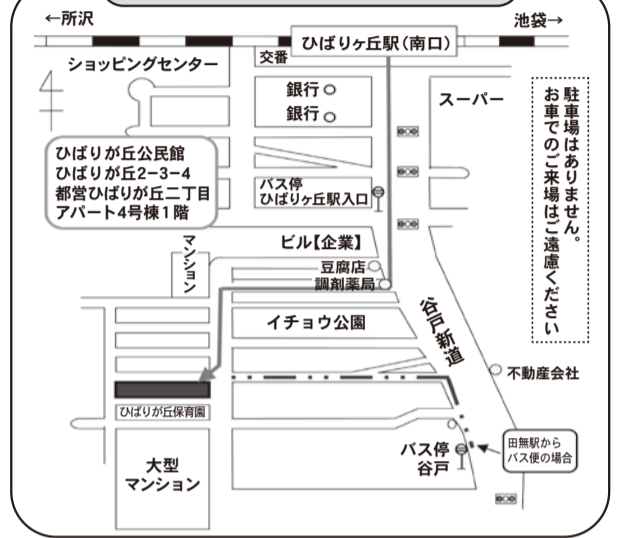


3/12(日) 10:00~16:00

ひばりが丘公民館

ひばりが丘公民館を中心に活動しているサークルによる発表と作品展示のフェスティバルです。素敵な出会いと感動があなたをお待ちしています。

アクセス ひばりが丘駅から徒歩8分



発表(集会室)

第1部

10:10 開場
10:25 開演~12:15(終演予定)

- マンドリンアンサンブルひばり
- カラズゴスペルクワイア
- オカリナ保谷グループ
- フルーツパフェ(フルート)
- 朗読劇の会 りふれ
- ひまわり(女声合唱)
- みんなで歌いましょう♪

第2部

13:45 開場
14:00 開演~16:00(終演予定)

- ワンダーシャイン(キッズダンス)
- 赤いレイ(ウクレレ)
- 女声コーラス ビバーチェ
- 朗読「草の会」
- しゅわクラブしゅわにゃん
- 声楽アンサンブル「魔女と侍女」
- みんなで歌いましょう♪

詳細はひばりが丘公民館へお問い合わせください

主催 ひばりが丘フェスティバル実行委員会
協賛 ひばりが丘公民館

西東京市公民館運営審議会・答申

本年1月25日開催の定例会で、公民館運営審議会(略称「公運審」)は、「西東京市公民館の主催事業における市民との協働・市民参加のあり方について」と題する答申書を公民館長に手渡ししました。これは平成28年3月23日に公民館長から諮問を受けた公民館運営審議会が、10カ月にわたって検討・審議を重ねて、まとめたものです。その概要を紹介します。なお全文は市内6館の公民館でご覧になれます。

西東京市公民館の主催事業における市民との協働・市民参加のあり方について(答申概要)

I 諮問の背景

公民館主催事業が市の行政評価の対象となり改善・見直しの必要性が指摘されていること、公民館独自評価の現状を踏まえ課題を分析していく必要があること、平成28年度からひばりが丘公民館を分室とする体制の変更が行われたこと、の三点から諮問がなされました。

II 公民館主催事業について

「公民館主催事業の意義」について、公民館職員・専門員(以下「職員」)及び公運審委員はどう考えているのか付箋ワークを行った結果等から、以下の三点をこれからの主催事業に期待しています。

i 公民館は単なる「施設」「空間」ではなく、主催事業によって公民館が果たすべき住民主体の地域づくりを実現していくこと。

ii 主催事業を構成する要素は、「地域市民(学習者)」「内容」「方法」であり、特に「方法」が多様に工夫されています。今後はその特性を生かして、より一層、市民参画を進めていくこと。

iii 主催事業は、単に講座というだけでなく、まつりやコンサート準備する過程でも市民

III 市民企画事業について

自治の力が育まれること。また、時間的・地理的に講座参加が難しい方々にも「公民館だより」により、学びの素材を届けることにも注目して事業計画を立てること。

IV 公民館主催事業における市民との協働・市民参加のあり方について

公民館主催事業における協働は、市民の評価が高くなっていること、高い評価の要因は、日ごろから市民と職員が対等でより良い関係性を築いているからです。その結果、市民が地域の課題を考え、職員はその専門性を活かして、従来の一律的な市の政策では対応できないニーズを掘り起こし、地域の特色を踏まえた解決策を協働で打ち出しています。

今後、市民参加条例等を指針としながら、公運審や利用者懇談会を積極的に活用し、公民館主催事業が市民同士の協働の触媒として機能すること等が必要とされています。

なお、ひばりが丘公民館は、これまで以上に市民の参加と協働を支える職員の役割の明確化を図りながら、ひばりが丘ならではの地域特性を生かした事業水準を保ってほしいと考えます。

今回、久々に映画を見て思ったことは、土地や権力をめぐって争う人たちの姿は何ら変わっていないということ。真の平和は本当にあるのでしょうか。

公民館主催事業における協働は、市民の評価が高くなっていること、高い評価の要因は、日ごろから市民と職員が対等でより良い関係性を築いているからです。その結果、市民が地域の課題を考え、職員はその専門性を活かして、従来の一律的な市の政策では対応できないニーズを掘り起こし、地域の特色を踏まえた解決策を協働で打ち出しています。

公民館だより公開編集会議開催

公民館だよりに対するご意見や、公民館だよりで取り上げてほしいことなどを自由に話しあいます。公民館だよりの紙面を充実させるために、感想や地域の情報をお聞かせください。どなたでもどうぞ。

時 3月21日(火)10時~12時
場 柳沢公民館



メールでの講座申込方法

アドレス: 1面参照
件名: 講座名
本文: 氏名・電話番号・住所・年代
※後日確認メールを送ります。届かない場合はお手数ですが、電話でお問い合わせください。

市民レビュー

映画

「アラビアのロレンス」
(1962年/イギリス/3時間46分完全版)
監督: デヴィッド・リットン
出演: ピーター・オトゥールほか

五十数年前に公開された映画です。現在の中東の情勢、その発端を知るには恰好の作品。
当時イギリスはトルコと争って、アラビア半島をフランスと共に植民地支配しようと画策していました。

その時イギリスの陸軍少尉トマス・エドワード・ロレンス(1888年生まれ)が砂漠に魅せられ、ひょんなことからアラブ独立闘争(アラブ反乱)を指揮することになります。

ストーリーには、これに現在のアラビア半島にある諸王家の人物たちが登場して、話の展開を賑やかにするのです。

最後、ロレンスはイギリス陸軍の英雄となりながらも、大きな失意(結局は祖国イギリスにいいようにされて、アラブ人たちを解放できなかった)を抱いてアラビアを後にします。

そして16年後の1935年、愛用していたオートバイで事故を起こし、亡くなることになりました。

今回、久々に映画を見て思ったことは、土地や権力をめぐって争う人たちの姿は何ら変わっていないということ。真の平和は本当にあるのでしょうか。

榎本 桂三(泉町在住)